

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区玄鼻1-8-1

ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

新年度にあたり、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は平成29年度の卒業生で40期を数えることになりました。平成27年9月に40周年記念行事を開催しましたが、その時にちょうど学部の2年生だった学生さんたちです。この調子であつという間に50周年がやってくるのだろかなと感じています。

平成29年度の同窓会企画 Life Work Balance「趣味編」は、28年度の「子育て編」に続いて30名近い参加者があり、準会員である学部生も3名参加してくれました。「手芸」「ライブ」「自転車」とシンポジストの会員がそれぞれの趣味について熱く語り、趣味をもっているからこそ仕事もうまく乗り越えていける様子がよく伝わってきました。広報委員会の尽力でここ数年なかなか活気ある同窓会企画が続いています。この原稿を書いている時点では、まだ具体的に決定していないようですが、今度もまた同窓生の興味を引くような企画を計画しているようです。同窓会企画はもともと総会への参加者を増やすことを目的にスタートしたものですので、久しぶりに母校を訪れるきっかけとして、平成30年度の同窓会企画、総会への参加を是非ご検討ください。

平成29年度は同窓会にとって喜ばしい出来事、新たな出来事がありました。喜ばしい出来事は9期生の石井邦子さんが優良看護職員厚生労働大臣表彰を受賞されたことです。ホームページに受賞のコ

メントとお写真が掲載されていますので、是非ご覧ください。新しい出来事は規約の第5条に国際会員が追加されたことです。国際会員とは、千葉大学看護学研究科国際プログラムの修了生で、この改訂に合わせて英語版の入会案内を作成しました。該当者はまだ1名ですが、今年度さらに2名がプログラムを修了する予定です。国際プログラムの修了生と千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会とのつながりが、将来的に日本と留学生の母国の国際交流へと発展することを期待しています。

平成25年度から開始した学部生の学術集会参加費の助成については、卒業後1年以内の卒業研究の発表についても助成の対象としたところ、さっそく2名の会員から申請がありました。たよりで平成29年度から始まった新カリキュラムについて紹介されているかと思いますが、カリキュラム改訂の目玉の一つである研究力強化とこの助成制度がうまくマッチし、平成30年度はさらに多くの会員がこの助成を利用することを願っています。

これらのよい流れを継続すべく、平成30年度の活動方針として、昨年度に引き続き以下の2つを提案いたします。

- ① 準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにする。
- ② 評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声が同窓会活動に反映されるようにする。

活動方針の実現に向けて、ご支援・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶

看護学部長・看護学研究科長 中村 伸枝

新年度を迎えお忙しいなかにも、新たな気持ちで日々お過ごしのことと思います。

千葉大学看護学部の卒業生は、この3月で3,406名となり、大学院看護学研究科の修了生は、1,098名（博士後期課程189名、博士前期課程783名、修士課程126名）になりました。学会や会議で同窓生にお会いすることも多く、様々な場で活躍されている皆様をとても頼もしく感じています。

IT技術の進歩は、多くのデータを短時間に処理し、広範囲な発信を可能とすることで、社会に大きな変化をもたらしており、ものごとが効率的に短時間で進められる一方で、教育の場や医療の場においても、ゆっくり立ち止まって考えること、やり直して試みるのが難しいと感じるこの頃です。このようななか、平昌オリンピックで感じたのは、データ分析に基づき日々努力すること、新たな方法を創造すること、共に過ごすことの重要性、そして、集団の力はこの総和を超え得るという実感でした。急速に進歩したIT技術とのつき合い方、お合いのつけ方を学びつつ、分析できない（しないほうがよい）生活全体のもつ意義も大切にしていきたいと感じています。

看護学研究科は、昨年度に引き続き「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学」として機能強化を進めています。国際誌への投稿論文を増やすことはひとつの取り組みですが、本研究科の強みや特徴は、

グローバルな課題が生じる超高齢社会において、複雑化・高度化する課題を解決するため、学際的な視点をもつ理論やモデルを創出する研究者および、臨床実践の現場と大学をつなぎエビデンスに基づき臨床現場を改革する高度実践者・管理者の育成と、その循環を生み出すことであると考えています。看護学研究科附属看護実践研究指導センターと専門職連携教育研究センターは、この循環を生み出すうえで大きな役割を担っています。看護実践研究指導センターが進める「看護学教育の継続的質改善(CQI)モデルの開発と活用推進」プロジェクトのなかで実施した看護学教育ワークショップでは、様々な課題をもつ大学がそれぞれ阻害要因はあっても、自らが質改善を推進していくことを共有し、課題のまとめりと看護学教育の自立的・継続的質改善の戦略を練ることに取り組み、活発な意見交換がありました。専門職連携教育研究センターでは、玄鼻IPEの活動を基盤に、国内外からの視察や招待講演等を受け、センターとしての存在感を高めています。看護学専攻、看護システム管理専攻、共同災害看護学専攻、そして2つのセンターの将来像をどのように描くか、予算や人員の削減と、看護学研究科のミッションと夢…を考えあわせつつ、研究科の二次再編は佳境に入っています。

看護学部・看護学研究科の同窓生の皆さまもさまざまなことを感じながら、活動されていることと思います。看護学部・看護学研究科についてご意見や感じることがありましたら、いつでもお聞かせください。今後とも、同窓会と連携しながら看護を通して人々の健康・生活を支えていきたいと考えております。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年度 総会報告

平成29年7月2日(日)14時10分から、看護学部第一講義室にて同窓会総会を開催しました。総会では、会長挨拶の後、総務委員会から、平成28年度は4名に対して学術集会参加費助成を行ったこと、国際学会参加の3名には、理事会にて審議しそれぞれ10,000円の助成をしたこと、会計担当からは平成28年度の入会状況が報告されました。名簿委員会からは、名簿の発行を行ったこと、名簿作成や発送に関する諸問題とその対応等が説明されました。また、たより委員会からは、平成29年5月にたよりを発行したこと、広報渉外委員会からは、ホームページの更新や企画の報告、卒業生及び修了生への記念品贈呈、退官教員への記念品贈呈等が報告されました。また、平成28年度の会計監査について報告され、承認されました。

平成29年度の新役員が選出され、平成29年度の活動方針について、岡田会長より、①準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにすること、②評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声が同窓会活動に反映されるようにすることが提案され、承認されました。また、総務委員会から、例年通りの活動を行うこと、学部生の準会員に対する学術集会参加費助成について広く広報し引き続き募集・助成を行うことが提案され、承認されました。名簿委員会からは、名簿作成・発送に向けた活動スケジュールについて、ハガキ返送率の低い27期以降を中心に督促状を送付すること、たより委員会からはたよりの発行計画、広報渉外委員会からは、入学生及び卒業生・修了生への記念品贈呈、ホームページ更新などが提案され、承認されました。また、学術集会参加費助成について、平成28年度は国際学会参加についての申請があり、今後もそのような申請が増えることが予想されるため、助成金限度額を1人10,000円に増額すること、また卒業後に卒業研究を学術集会で発表してもらうことを促進する目的で、卒業後1年以内に卒業研究を発表する場合には助成の対象とすること、学術集会以外でも研究活動を目的として参加したイベントであれば対象とすることが提案され、承認されました。国際プログラムの学生が同窓会に入会する場合、同窓会よりなど同窓会からの発信、イベントは日本語での提供であり、英語での授業、修士論文の作成を行う国際プログラムの大学院生は日本語がほとんど理解できず、国際会員にとって有益なものが少ないため、通常会員と同様の入会費をとることが適切ではないという理由で、入会金はとらないことが提案され、承認されました。平成29年度の活動予定に対して、平成29年度予算案が審議され、承認されました。

資料1

平成29年度 決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入『決算ー予算』、支出『予算ー決算』、△表記＝マイナス、無印＝プラス

正会員の収支				
項 目	計	予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部	計	7,688,706	7,883,546	194,840
1. 会費	計	7,673,706	7,880,546	206,840
1) 繰越金		6,281,206	6,281,206	
2) 29年度新入会員終身会費 (12,000円×118名) (内訳: 13N卒業生90名 修了生28名)		1,392,000	1,416,000	
3) 利子		500	183,340	
2. 広報・渉外委員会	計	0	0	0
40周年記念誌代 ※残部少数のため販売は実施しない				
3. 名簿委員会	計	15,000	3,000	△12,000
名簿代振込 (3,000円×1件)				
支出の部	計	8,532,003	7,883,546	648,457
1. 理事会	計	509,000	186,529	322,471
1) 会議費		5,000	0	5,000
2) 交際費		300,000	127,840	172,160
内訳: 校友会		50,000	50,000	0
弔慰金		50,000	0	50,000
亥鼻祭への寄付		50,000	50,000	0
同窓会と準会員との交流活動援助		50,000	0	50,000
亥鼻キャンパス留学生交流会への寄付		50,000	0	50,000
学部オープンキャンパス運営補助		60,000	27,840	32,160
3) 準会員への支援		200,000	55,000	145,000
内訳: 学部学生への学術集会参加費助成 (平成28年度4名分含) 10,000円×4件 5,000円×3件			40,000	
4) 通信費		1,000	82	918
5) 雑費 (振込み手数料等)		3,000	3,607	△607
2. 総務委員会	計	55,000	31,104	23,896
1) 会議費 (交通費・茶菓子代)		21,000	6,699	14,301
2) 通信費 (事務連絡通信費)		5,000	7,556	△2,556
3) 人件費		20,000	15,000	5,000
内訳: 総会託児アルバイト謝金5,000円×3名			15,000	
4) 消耗品費 (評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)		7,000	1,849	5,151
5) 雑費 (振込み手数料等)		2,000	0	2,000
3. 名簿委員会	計	385,500	282,076	103,424
1) 名簿制作費 (今年度作成せず)		0	0	0
2) メンテナンス・データ処理		135,000	108,000	27,000
3) 個人票関係費 (督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)		237,000	161,848	75,152
4) 謝金 (個人票確認作業補助)		10,500	10,500	0
5) 雑費 (振込み手数料等)		3,000	1,728	1,272
4. たより委員会	計	859,341	772,897	86,444
1) たより印刷発送費		858,341	772,033	86,308
2) 雑費 (振込み手数料等)		1,000	864	136
5. 広報・渉外委員会	計	284,500	178,535	105,965
1) ホームページ更新費		45,000	35,640	9,360
2) 会議費		16,000	15,865	135
3) 印刷費 (同窓会企画周知用チラシ印刷3,500部・三つ折代・送料含)		55,000	49,800	5,200
4) 渉外費		130,000	69,646	60,354
内訳: 卒業式記念品		55,000	42,606	12,394
同窓会企画謝金5名		20,000	25,000	△5,000
同窓会企画 (県外より0名) 交通費		24,000	0	24,000
同窓会企画 (県内より3名) 交通費		6,000	2,040	3,960
退官記念品		20,000	0	20,000
5) 消耗品費		3,000	5,640	△2,640
6) 人件費		10,500	0	10,500
7) 通信費		1,000	0	1,000
8) 雑費 (振込み手数料等)		4,000	1,944	2,056
6. 予備費	計	5,615,365	6,432,405	△817,040
1) 入会案内の英翻訳代 (振込手数料含)			45,412	
2) 30年度繰越金			6,386,993	

資料2

平成30年度 予算案

収入の部		計	7,794,493
1. 会費	計	7,779,493	
1) 繰越金		6,386,993	
2) 新入会員会費 (12,000円×116名) (内訳: 14N卒業生87名 修了生29名)		1,392,000	
3) 利子		500	
3. 名簿委員会	計	15,000	
1) 名簿購入見込 (3,000円×5名)		15,000	
支出の部	計	7,794,493	
1. 理事会	計	419,000	
1) 会議費		5,000	
2) 交際費		210,000	
<内訳>			
校友会費: 50,000円			
弔慰金: 50,000円			
亥鼻祭への寄付: 50,000円			
学部・大学院オープンキャンパス運営補助: 60,000円			
3) 準会員への支援		200,000	
<内訳>			
学部学生への学術集会参加費助成 (上限10,000円/名×20名見込み)			
4) 通信費		1,000	
5) 雑費 (振込み手数料等)		3,000	
2. 総務委員会	計	50,000	
1) 会議費 (交通費・茶菓子代)		21,000	
2) 郵送料 (事務連絡通信費)		5,000	
3) 人件費 (総会託児アルバイト謝金5,000円×3名分)		15,000	
4) 消耗品費 (評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等)		7,000	
5) 雑費 (振込み手数料等)		2,000	
3. 名簿委員会	計	386,300	
1) 名簿制作費 (制作冊数400冊、初期投下代含) 名簿作成年度のみ		0	
2) メンテナンス・データ処理		135,000	
3) 個人票関係費 (督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)		200,000	
4) 会員情報訂正用ページのシステム作成初期費用 (作成費27,000円・管理料10,800円)		37,800	
5) 謝金 (個人票確認作業補助10時間分)		10,500	
6) 雑費 (振込み手数料等)		3,000	
4. たより委員会	計	826,000	
1) たより印刷発送費		825,000	
2) 雑費 (振込み手数料等)		1,000	
5. 広報・渉外委員会	計	369,500	
1) ホームページ更新費 (5,000円/更新1回×9回分)		45,000	
2) 会議費		21,000	
3) 印刷費 (同窓会企画周知用チラシ3,000部・三つ折代含)		55,000	
4) 渉外費		230,000	
<内訳>			
卒業式記念品 (バラ 学部生100名・院生40名) 55,000円			
同窓会企画 謝金 (5,000円×シンボジスト5名) 25,000円			
同窓会企画 交通費 20,000円			
入学記念品作成代 130,000円 (見積額220円×200冊＝130,000円)			
退官記念品 (10,000円/名) ※本年度予定なし			
5) 消耗品費 (卒業式記念品貼るテプラテープ代 他)		3,000	
6) 人件費 (卒業式記念品準備作業10時間分)		10,500	
7) 通信費		1,000	
8) 雑費 (振込み手数料等)		4,000	
6. 予備費	計	5,743,693	

平成29年度 千葉大学看護学部・看護学研究所同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

平成30年3月30日

監査 和住淑子 印

和住 印

小川 印

小川 印

Curio(キュリオ) 千葉大学校友会SNSの 入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>を開き、[\[入会案内はこちらから\]](#)をクリックし、『「Curio」入会申込書(正会員用)』より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類(運転免許証、健康保険証など)のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、「Curio」への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。



平成30年度 同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今まで以上に多くの皆様のご参加、ご意見をお待ちしております。

日時

平成30年6月30日(土)

14時10分～14時40分

会場

看護学部 第一講義室(2階)

千葉市中央区玄鼻1-8-1

*場所は、看護学部管理棟正面玄関等、各入口に掲示します。

内容

平成29年度事業報告、決算報告、平成30年度役員選出、活動方針、予算案、その他

***総会出欠に関しまして、同封のはがきにご記入の上、ご返送ください。**

＜総会・企画開催中の託児について＞

総会・企画開催時間中(13:00～15:30)、アルバイト学生(看護学部生)による託児を行う予定です。ご希望の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、ご返送ください。当日のお申込みはできません。料金は無料ですが、申し込み後にご都合が悪くなられた場合は、6月22日(金)までに下記の係までご連絡ください。なお、同日のおやつやお気に入りの玩具等があればお持ちください。

係：渡邊(20期)

連絡先：watanabemiwa@faculty.chiba-u.jp



平成30年度 総会議案

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会は、正会員に40期卒業生を迎えました。今後ますます同窓会活動が活性化するように、平成30年度の活動方針は、①準会員の同窓会活動への参加や学術集会参加費助成応募者の増加などを通じて、準会員と同窓会とのつながりを強化し、卒業後・修了後に会員であることを意識してもらえるようにする②評議員会、総会の出席者を増やし、会員の声と同窓会活動に反映されるようにする、の2つを提案します。

平成29年度決算報告書は資料1に、平成30年度予算案は資料2に示します。また、新役員案を資料3、新委員会案を資料4に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏を推薦します。また、副会長に引き続き大月恵理子氏、石橋みゆき氏を推薦します。

資料3

平成30年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会 新役員案

()は卒業期

会 長	岡田 忍 (3)	12期	末永 香	島田 広実	24期	小川 俊子	中村 愛	34期	上平 美和	能川 琴子
副会長	石橋みゆき (14)		河部 房子	石丸 美奈		村山 陽子			後藤 靖江	
	丸山 優 (21)	13期	荒屋敷亮子	末永 由理	25期	伊藤 明子	守屋 奈生	35期	萩野穂奈美	霜村 菜奈
評議員		14期	石川かおり	石橋みゆき		松本美佐子			田中 貴大	
1期	伊藤 隆子		齊藤しのぶ		26期	鈴木 和也	内海加奈子	36期	川島 悠佳	藤島 佳奈
2期	田中 裕二	15期	大塚 千春	前原 邦江		島村 敦子		37期	工藤ひかり	田近 祐子
3期	岡田 忍	16期	新井 典子	飯島 久美	27期	国原 健史	鉄矢 朋子	38期	富田 千尋	矢崎 萌子
4期	島田 尚江	17期	北島 美奈	松林 美子	28期	鈴木 悟子	宮川 祐子	39期	森元 花織	大和田理恵
5期	酒井 郁子	18期	神津 三佳	中嶋 秀明	29期	松岡 大樹	太田 愛		池田 結	
6期	児玉三枝子		永田亜希子			太田 潤		40期	澤本 美芽	黛 瑛里香
7期	亀崎 路子	19期	藤本 紀子	齊藤 千晶	30期	佐野 元洋	渡邊 賢治	修了生	仲井 あや	
8期	湯浅美千代	20期	長瀬明日香	渡邊 美和	31期	屋久 祐介	吉田 真美			
9期	萩野 雅	21期	菅谷 綾子	時田 礼子	32期	山崎由利亜	橋内 伸介	監 事	和住 淑子 (10)	
10期	錢 淑君	22期	山下 亮子	高橋 良幸	33期	伊藤真理子	松戸 麻華		小川 純子 (15)	
11期	野崎 章子	23期	榊原理恵子	長谷川智子		阿部由喜湖		会 計	岩瀬 靖子 (21)	
									山崎由利亜 (32)	

資料4

平成30年度 千葉大学看護学部・研究科同窓会 新委員会案

()は卒業期

総務委員会	委員長	渡邊 美和 (20)	たより委員会	委員長	永田亜希子 (18)
	副委員長	阿部由喜湖 (33)		副委員長	河部 房子 (12)
	委員	佐野 元洋 (30) 森田由香理 (31)		委員	太田 潤 (29) 池田 結 (39) 金井 友佳 (29)
名簿委員会	委員長	雨宮 歩 (26)	広報・渉外委員会	委員長	時田 礼子 (21)
	副委員長	小川 俊子 (24)		副委員長	石丸 美奈 (12)
	委員	野崎 章子 (11) 加瀬竜太郎 (36) 齊藤しのぶ (14) 仲井 あや (修)		委員	神津 三佳 (18) 大竹由希子 (34) 山下 亮子 (22) 田中 貴大 (35) 渡邊 賢治 (30) 川上 奈々 (39) 小村 文乃 (33) 沓澤 夏菜 (40) 能川 琴子 (34) 佐久間 葵 (40)

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して学術集会の参加費を助成しています。平成29年度は4名に対して助成しました。平成30年度も助成を継続し、多くの学部生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

【学術集会参加報告】

氏 名：松嶋 恭子（4年次生）

参加学会：医療経済学会 第12回研究大会

場 所：慶応義塾大学 日吉キャンパス

参加目的：看護における経済的価値がどのような視点から測れるか示唆を得るため

この学会は、経済・経営に携わる各機関の教授、研究員、院生などによる発表でした。特に印象に残ったのは、医療経済学会主任研究員である高久玲音先生の病院病床数を背景とした救急車受け入れに関する医療費と患者のアウトカム評価に関する研究でした。診療報酬制度下では、同じ行為に対してであっても病床数に応じて支払われる額が異なります。病床数が199床以下の病院では外来が主軸となり病院を経営、一方で200床以上の病床を有する病院では入院を主軸に経営をしています。救急搬送に際し搬送先病院はランダムに選ばれ、200床以上の病院では手術を受ける確率が高く、また看護師も多く配置をされていることから医療費は199床以下の病院より33%ほど高くなります。しかし患者、スタッフの満足度、患者の30日死亡率に差はみられませんでした。この結果からこの33%は医療費の無駄になっているのではないかとということが示唆されました。本学会では、研究テーマの対象が診療報酬のつく医師による医療行為に関するものが多かったですが、今後、看護における経済性を考えるに当たり、今回の学会での学びをいかしていきたいと思います。

2017年度 亥鼻祭のご報告

2017年度亥鼻祭実行委員会委員長 亥鼻祭実行委員サークル代表
医学部3年 上條恵莉子

2017年11月5日（日）に、第15回亥鼻祭を無事開催できたことをご報告いたします。当日は晴天に恵まれ多くのお客様に来ていただきました。今年度は初めての一日開催でしたが、当日は2,500人を超えるお客様に来ていただきました。14時半の時点で予定していたパンフレットを配り終える盛況ぶりでした。

「開催のお知らせ」においてもご報告させていただきましたが、今年は亥鼻祭の開催が危ぶまれておりました。その中で、私たちは運営主体を医学部3年にするとともに、1～3年の医学部・薬学部・看護学部の学生を中心に亥鼻祭実行委員サークルを正式に立ち上げ、新たな亥鼻祭を作り上げることを目指し、活動してまいりました。

亥鼻祭を新しい学園祭にしていく上で意識続けたことは、より多くの学生に参加してもらい、参加する学生が参加して良かったと感じる学園祭を作りあげることでした。学生とともに亥鼻祭を盛り上げたいとおっしゃって下さった、地域の方々や千葉大学医学部附属病院の先生方とともに多くの新しい企画を生み出しました。今までの企画に加え、地域の方々及び留学生による出店や「レモネードスタンド」という小児がん患者さん支援の募金活動、西千葉キャンパス環境ISO学生委員会による企画を通し、今まで亥鼻祭に参加したことのない多くの学生が今年は参加してくれました。亥鼻祭終了後に多くの学生より来年度以降も参加したいという声をもらいました。亥鼻祭を学生だけでなく大学・地域全体で作りに上げたことを、一人ひとりが強く実感したかけがえのない一日になったと思います。

今年度の亥鼻祭の運営をしたので、来年度はまた新たな魅力を持った亥鼻祭を後輩が作り上げていくのをサポートしていきたいと思っております。

最後になりましたが、亥鼻祭が新しく生まれ変わる機会を下さった全ての方々に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも、ご支援ご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



Life Work Balance

第2弾!

—自分らしく暮らす—

開催概要

日時：平成29年7月2日（日） 第一部：13：00～14：00、第二部：14：50～15：20

場所：千葉大学看護学部 第一講義室

平成28年度に引き続いて「Life Work Balance」企画第2弾です。自分の暮らしを大切に、楽しみながら働くコツを、いろいろな世代の人から話を聞いてみたいと思いました。仕事をしながら、趣味を楽しむためにどうしてる？プライベートを楽しむために、仕事の息抜き、家族との協力はどうしてる？とお話を聞き、これから先の暮らし方を考え、縦横の交流を深められるシンポジウムを実施いたしました。

【参加いただいたシンポジストの皆様】

東山 愛美（37期）千葉大学医学部附属病院
田中 貴大（35期）千葉大学医学部附属病院
吉野有希子（27期）千葉大学医学部附属病院
神津 三佳（18期）千葉大学医学部附属病院

【座長】

渡邊 賢治（30期）
東京女子医科大学
看護学部

参加者からの声

- ・趣味を持つことはあらためて大事だと感じた。
- ・趣味を持ちながら、限られた時間を使うことを両立させるための要素は「自分が1時間にできる範囲を知る」「1時間でできる作業を集中してやる」ことだと思い、参考にしようと思った。
- ・本業と趣味の両立について、学生生活にもきっと役立つものと思いました。ありがとうございました。（学部生）
- ・あたたかく接して下さった皆さんに大変感謝しています。改めてワークと趣味のバランスをしっかりとっていきたいと思いました。（学部生）
- ・卒後、久しぶりに看護学部に来られて、いろいろお話も聞けてよかったです。

平成29年度は、28名の方が参加してくださいました。学部生が2名、そして、1けた期から30期代までまんべんなく参加して下さり、本当に嬉しく思います。企画に参加して下さった皆様、当日運営にご協力くださった皆様に厚く改めて御礼申し上げます。今後も、学部生も参加しやすく、且つ様々な年代の方と交流できるような企画を考えていきたいと思います。広報渉外委員メンバーに、学部生や大学院生が加わり、フレッシュな顔ぶれです。今後ともよろしく願いいたします。

平成29年度広報渉外委員一同

委員長：時田 礼子（21期） 副委員長：石丸 美奈（12期）
委員：田中 貴大（35期）、大竹由希子（34期）、能川 琴子（34期）、小村 文乃（33期）、
渡邊 賢治（30期）、山下 亮子（22期）、神津 三佳（18期）、姫野 雄太（大学院生）、
川上 奈々（大学院生）、沓澤 夏菜（4年生）、佐久間 葵（4年生）

平成29年度入学生より看護学部の新しいカリキュラムがスタートしました。

平成26年3月、千葉大学看護学部・看護学研究科は、国立大学ミッションの再定義を行い、今後の展望として「看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成する」ことを目指すこととしました。また、人材養成目的は、「看護学の学術的基盤の充実・発展に寄与する教育・研究者の育成、高度な問題解決力・新たな価値体系の創造力・指導力を備えた実践者及び管理者の育成、学際的かつ国際的に活動推進のできるグローバルリーダーの育成を行う」と定めました。

この再定義結果を踏まえ、千葉大学看護学部では、平成29年度より新たなカリキュラムにて看護学基礎教育を開始しました。

1. カリキュラム改正の要点と検討経過

今回のカリキュラム改正の要点は、平成17年度に開始された旧カリキュラムで定めた教育目標の再構成と、再構成した目標に則した卒業時到達目標の設定です。検討経過の特徴として、①千葉大学看護学部の現在に至る教育理念や既存の声明との整合性の点検、②医学教育や看護学教育の世界的動向を踏まえてアウトカム基盤型教育の考え方を基盤とし、卒業時到達目標を検討した点があります。②においては、平成20年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を参照しました。この平成20年答申では、学習者中心の教育の実現に向け、学士課程教育における方針の明確化が求められています。よって、新カリキュラムでは、卒業時到達目標別に下位目標と到達レベルを設定し、全科目において、学生の達成度についてその評価を学習者と教育者が共有できるカリキュラムとなることを目指しました。

学部教務委員会のもと、カリキュラムワーキンググループが編成され、平成26年10月から平成27年1月にかけて、旧カリキュラムの6つの卒業時到達目標の要素、すなわち、1)対象の理解と看護実践の力、2)生命・人権の尊重と擁護、3)問題解決能力、4)看護専門職者の役割・責務・機能、5)文化の多様性の理解、6)自己教育力について改正の必要性の有無及び方向性を集中的に審議しました。参照資料として、学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標（平成23年3月文部科学省）を用いました。さらに、千葉大学看護学部の教育理念や特徴を踏まえたカリキュラム改正とするため、国立大学ミッションの再定義結果ならびに看護学部底力宣言等、平成17年以降に公表された資料を検討材料とし、6つの目標とこれら資料の内容を照合・点検しました。

点検の結果、平成17年に開始したカリキュラムの教育目標・到達目標は、参照資料の内容を包含していることが確認できました。このため、平成17年に策定された6つの教育目標の要素を踏襲し、新カリキュラムの目標を再構成することが望ましいと判断し、表のように6つの目標を

再構成しました。

一方、学生の学習成果の点検として、ポートフォリオの記載内容や4年間の学修のまとめと今後のキャリアを考える科目である看護学セミナー（統合）の学生のレポートや発表内容をカリキュラムWGで振り返りました。その結果、学生は、平成17年度カリキュラムの教育目標3)問題解決力と1)実践力とを混同しやすいこと、また、グローバル関連事項については、他の到達目標と比べて、学生の記述内容が極めて少ない等の問題点が明らかとなりました。

以上の検討結果を踏まえ、旧カリキュラムの目標を基盤に、3.研究力・科学的探究力と5.グローバル社会における貢献力の修得強化を目指して新カリキュラムにおける6つの教育目標の領域を再構成し、卒業時到達目標とその下位目標を設定しました。

2. 新カリキュラムの特徴

現行の全ての授業科目の内容をカリキュラムツリーの順序に沿って新たな卒業時到達目標に照らして精査したところ、新カリキュラムの研究関連科目ならびにグローバルに関連する科目が相対的に少なく、新科目を立ち上げる必要があることが明らかとなりました。また、自己教育力に関しても卒業時に学生が到達できるよう看護学セミナー（統合）等キャリア教育の充実のための科目内容を見直す必要性も示唆されました。

一方、看護実践能力に関しては、新カリキュラムの到達レベルで現行の実習科目を評価したところほぼすべての実習科目において卒業時到達目標に達していることが確認されましたので、現行カリキュラムの講義、演習、実習の順序性・体系性を踏まえたカリキュラムとすることが望ましいと判断し、時間割を作成しました。新カリキュラムの時間割作成では、内容を刷新する必要のある研究関連科目やグローバル科目の配当年次の見直しに伴い、臨地実習開始時期を旧カリキュラムの3年次前期から、2年次後期に早めることとしました。

研究力の強化については、従来3、4年次に担当していた看護実践と研究ⅠとⅡ、計6単位を、1年次から1単位ずつ段階的に履修し、4年次に3単位を履修する形に変更することとしました。この変更によって、学生は段階的に研究への興味関心を喚起し、実習体験も織り交ぜながら、看護事象に関心を寄せて研究を実施することができることを目指しました。

グローバル社会における貢献力の強化については、今までは4年次の履修としていた看護国際協力論をGlobal Health and Nursing Iと名称変更して2年次に履修時期を変更し、普遍教育科目の国際日本学等との連動性を高め、多様な文化の中における看護活動の在り方について考察する機会を低学年から得られるようにしました。また、旧カリキュラムの看護行政・政策は看護政策論と改め、歴史的・

制度的およびグローバルな観点から、実際の看護政策活動を教材としながら、政策活動に必要な基礎的知識や態度を修得する科目としました。これらのグローバル科目は履修する学生が、より広い視野を得て演習として留学や国際的活動に積極的に参加することができるよう、自由科目ではありますが履修指導において履修を強くすすめる科目に位置づけています。

実習については、基盤実習を2年次9月開始に変更し、統合実習を4年次第2タームまでに終了する計画としました。この実習配置により、学生が実習体験を経て研究関連科目に集中して取り組む時間をより多く確保することを目指しています。また、2年次から4年次にかけて夏期休暇や春期休暇期間を活用し海外の協定校と交流等を図るGlobal Health and Nursing IIの計画的かつ柔軟な履修が可能となることや、4年次後期にはキャリア発展に向けインターシップを活用する等、学生が自らキャリアを描き主体的に学ぶための時間を確保することができるカリキュラムとしました。

3. 新カリキュラムがスタートして

同窓生の皆様には、日頃より看護学部/看護学研究科の臨地実習において指導を賜り感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

平成30年は、新カリキュラムを履修した学生が2年生に上がります。平成29年度入学生は、すでに看護実践と研究Ⅰを1年次に履修し、批判的に研究論文を読みこんでいます。また、1年次に履修する医療と看護の歴史において、先輩の活躍を直接伺い、4年間の学修計画や卒業後のキャリアについても主体的に考える機会を得ています。そして、平成30年9月には、新カリキュラムでの基盤実習が始まります。

学部教務委員会では、今後、新カリキュラムが適正に運用できるよう計画し、実行するとともに、新しいカリキュラムを履修した学生の学習成果を評価もしていかなければなりません。そして、平成31年度は、旧カリキュラムと新カリキュラムの実習が重複する年であり、教員は一年を通じて実習指導がない時期がない、という山場を迎えます。さらに、看護学部は、平成31年度の実習の山場を迎え、引き続き、実習内容を拡充する方向でカリキュラムの変更を予定しております。

もし、看護学部の後輩が実習等で皆様の職場に伺いましたら、ぜひ、実習指導に積極的に協力いただきたく、お願いを申し上げます。

※本稿は看護学部／看護学研究科紀要39号に掲載した実践報告をもとにまとめた記事です。

表1 新カリキュラムの教育目標・卒業時到達目標

卒業時到達目標の領域	教育目標	卒業時到達目標
1. 看護実践能力 (対象の理解と看護実践の力)	幅広く深い教養、豊かな人間性と専門知識を基盤とした総合的な判断力を有するジェネラリストを育成する	看護の対象となる人とのかわりにおいて、人間についての幅広い専門知識を使って、その人を統一体として理解し、臨床判断により看護の必要性を見出し、根拠に基づきあらゆる健康レベルにある人の看護を実践できる
2. 倫理の実践能力 (生命・人権の尊重と擁護)	倫理的感受性を磨き、看護職者としての倫理的判断に基づいて行動できる。また、常に看護の対象となる人の立場にたって行動し、それを倫理的な観点から説明できる人材を育成する	生命への畏敬の念をもって、個人、家族、集団、地域の多様な価値を多角的に理解し、看護の対象となる人の立場を尊重する行動や態度をとることができる
3. 研究力・科学的探究力 (問題解決能力)	創造力や開拓精神を発揮し、科学的視点をを用いてより良い看護を実現するための基礎力を備えた人材を育成する	看護に深い関心を寄せ、課題を見出し、科学的に課題を分析、解決するための方法を示し実施できる
4. 専門職連携力 (看護専門職者の役割・責務・機能)	保健医療福祉チームにおいて、看護専門職者としての責任を持ち、専門職連携実践のできる人材を養成する	保健医療福祉チームにおける専門職連携実践を理解し、看護専門職の役割機能を発揮しながら、連携に必要な態度と行動をとることができる
5. グローバル社会における貢献力 (文化の多様性の理解)	看護学を通じ、多様性を理解し、グローバル社会に貢献できる基礎的能力を備えた人材を育成する	多様な文化の中で生じる様々な健康問題に対して行われる看護活動の実際を理解し、看護学を通じてグローバル社会に貢献するための方法を計画できる
6. 自己教育力 (自己教育力)	自己の成長が看護学、看護の発展ひいては、人類の福祉に貢献することに価値を感じ、生涯にわたり自己学習・自己評価し続けることのできる人材を育成する	適切な自己評価に基づき看護職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、適切な学習方法を選択・活用して、絶えず課題の克服と目標達成に取り組み、その成果を評価することができる

() 内は旧カリキュラムにおける卒業時到達目標の要素

個人票の返送と記入について

個人票はすべての会員の方が返送してください。

個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆さまから返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生・看護学研究科修了生の現在の就業状況を統計的に把握しています。これは、**卒業生・修了生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料**となっております。**住所変更をしていなくても、個人票の返送による会員データ管理は、毎年継続しておりますので必ず返送**して下さるようお願い申し上げます。

今年3月に卒業された方々も、住所に変更がなくても必ずご返送ください。

皆さまご多用のところとは存じますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご注意ください。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレッダー）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

個人票記入の手引き

☆ご自分の個人票データについて、変更・訂正のある場合は、右側の変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。

変更・訂正をご記入された方は、同封の個人情報保護シールを上貼して、情報をカバーし、ご返送ください。

☆勤務形態、設置主体、職種、職位は下記のコード表（コード表は、個人票の右側にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。

☆現住所で連絡が取れないときのために、帰省先の住所をお尋ねしております。

☆勤務状況については、現在就業している方は「有」、就業していない方は「無」とご記入ください。

☆現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、（在学中）とお書きください。勤務を続けたまま学生をされている方（科目等履修も含む）は、勤務状況と学校名の両方のご記入をお願いいたします。

☆近況報告について、ご記入いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、右のチェック欄にチェックしてください。

☆名簿に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する訂正欄に「不掲載」とご記入ください。

[コード表]

勤務形態： 1. 正職員 2. 臨時職員（非常勤、パートタイマーなど） 3. 休暇・休業中

設置主体： 1. 国立大学法人 2. 都道府県 3. 市町村 4. 公益団体 5. 学校法人 6. 医療法人 7. 個人会社

職 種： 1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教育職 6. 研究職
7. 一般職（看護職以外）

職 位： 1. 非管理職：一般看護職員、一般専任教員、助手など 2. 中間管理職：主任、市町村等の係長、准教授、講師、助教など 3. 管理職：師長、教務主任、市町村等の課長、教授など 4. 看護部長、副看護部長、学部長、研究科長など

個人票返送の締め切り **平成30年6月末日** までに返送してください。

同期の皆様へのメッセージコーナー

15期生の皆様へ

皆様、お元気でいらっしゃいますか？看護学部同窓会の日程に合わせて、15期同期会を企画しています。詳しくは、参加予定の皆様のご都合に合わせて決定したいと思います。件名に“15期同期会”、お名前（旧姓も）、ご連絡先メールアドレスを明記の上、kmaehara@faculty.chiba-u.jp（前原）宛に電子メールをお送りください。後日、メールでご連絡させていただきます。また、今回は参加できないという方も、同期生へのメッセージを承ります。下記の担当者まで、ご一報ください。

なお、個人情報の保護には十分に留意し、他の目的には使用いたしません。ご連絡をお待ちしております。

15期 小川純子、前原邦江

今後も、同窓生の皆様へご報告したいことやメッセージがあれば、受け付けています。

翌年のたよりで、メッセージを掲載したい方は、**2019年1月末日まで**に、**kango-40th@chiba-u.jp**まで、お寄せください。

平成30年度

千葉大学大学院看護学研究科

教員紹介

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	技術／特任
看護学	先端実践看護学		看護病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
		高度実践看護学	小児看護学	中村 伸枝	佐藤 奈保		仲井 あや 下屋 総平	
			成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		渡邊 美和 楠 潤子	(特任准教授) 長坂 育代
		高齢社会実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		山崎由利亜	(特任准教授) (特任研究員) 大原 裕子 林 弥江
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩	
			リプロダクティブヘルス看護学	森 恵美	岩田 裕子		小坂 麻衣 木村佳代子	(特任准教授) 前原 邦江
			健康管理看護学	北池 正	池崎 澄江			
		地域創成看護学	精神看護学			野崎 章子	館 祥平 時田 征人	
			地域看護学	宮崎美砂子	石丸 美奈		鈴木 悟子	
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子		湯本 晶代 ■横田恵理	(技術補佐員) 田代 実香
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本 利江	斉藤しのぶ		阿部由喜湖 素村 知佳	
		専門職育成学	看護教育学	中山登志子				(技術職員) 鹿島嘉佐音 植田満美子
		看護政策・管理学	看護管理学	(吉本 照子) (酒井 郁子) (野地 有子) (和住 淑子)				
		災害看護学		(特任) 岩崎 弥生	(特任) 伊藤 尚子			
看護学 共同災害看護学	看護学	災害看護学						
	看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学	手島 恵				
	看護システム管理学	看護システム管理学	地域看護システム管理学	吉本 照子		飯野 理恵		
附属看護実践研究指導センター	看護システム管理学	看護システム管理学	ケア施設看護システム管理学	酒井 郁子			カズノバタビッド	
	看護システム管理学	看護システム管理学	ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子	赤沼 智子		(特任研究員) 炭谷 大輔
	看護システム管理学	看護システム管理学	政策・教育開発研究部	和住 淑子	銭 淑君	今村恵美子		
附属専門職連携教育研究センター					(特任) 井出 成美	(特任) 高橋 在也 白井いつみ	■馬場由美子	
外部資金等講座				特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員／事務補
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン								(特任研究員) 小野 智子 國武由香里
看護学教育CQIモデル開発と活用推進							(特任) 稲垣 朱美	

* 下線…正会員 ■特命助手 () の名前…兼任者

平成30年度 千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

● 博士前期・後期課程(看護学専攻) ● 5年一貫制博士課程(共同災害看護学専攻) ● 修士課程(看護システム管理学専攻)対象

日 時：平成30年 5月19日(土)
集合時間 12：50 開催時間 13：00

会 場：看護学部 講義・実習室 (2階)

内 容：(1) 看護学研究科の概要と特色
(2) 各専門領域等教授紹介
(3) 入学試験の説明
(4) 大学院生からのメッセージ
(5) 専門領域別質問コーナー、大学院生との交流

問い合わせ・申込先

お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野(専門領域)を記載の上、「大学院説明会参加希望」と明記して、ハガキ、FAX、Eメールで千葉大学看護学部大学院学務宛て、お送りください。締め切りは、平成30年 5月11日(金)17：00です。

問い合わせ先

〒260-8672 千葉市中央区玄鼻1-8-1 看護学部大学院学務係
TEL 043-226-2450 FAX 043-226-2382
Eメール：tae5667@office.chiba-u.jp
千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/